のように，江戸時代の外交・交易の場でどのような日本語が使われていたのかを知る貴重な資料です。

（おおくら・ひろし　文芸・言語学系助教授）

開学30周年記念特別企画「活字と歩んだ筑波大学の30年」②
「速報つくば」の誕生とあゆみ

山﨑　敏誉

「速報つくば」構想は，筑波大学創設期の学内広報活動を検討する中で誕生した。

昭和48年10月の開学時，企画調査室準備委員会が設置され，翌年５月に現在と同じ企画調査室となる。当時の企画調査室は，学長と副学長に一名ずつの室員が対応する相談役体制をとっていた。開学時の混乱で，プラニングというより種々雑多な仕事と苦情処理に忙殺されていたとある。そんなさなかでも小冊子「広報筑波」を刊行するなど学内情報伝達の努力を払っていたが，根本的な解決策とはならなかったのであろう。昭和49年９月３，４日に開催された筑波大学長期計画シンポジウムで，学内の不満不安解消の当面の手段と恒久的なコミュニケーション・システムの確立について論じられ，決定された一つに「学内の動きを教職員及び学生に向けて速報する。」があった。

翌月，開学１周年である昭和49年10月１日，「広報筑波」は第４号を発行し任を終える。これを引き継ぐ形で，同日「速報つくば」のデビュー。速報性に重点を置き，400字詰め４枚。電話かメモによる情報を基とし編集で手を入れる。土曜日原稿渡し，火曜日配布。発刊番号は100年でも4,000号程度となる通し番号。気軽に読み捨て出来るよう綴り穴を設けない等が掲げられた。報道方針として，「会議の場合は結果もさることながら途中経過を知らせ，意見があれば会議のメンバーに直接連絡を入れてもらう。したがって網羅的に議題を知らせるだけでも良く，それを活用するか否かは個人の問題である。」とあり，途中多少の変遷はあったものの，現在に共通する。

この寄稿を機に初めて見た創刊号。編集後記に「官報的なものでなく，“かわら版”的に編集するので気軽に読んでいただきたい。」とある紙面は，Ｂ４判白紙の両面印刷二つ折り。手書きの風景イラスト。速報性重視の週刊。紙面の関係からか活字も小さく印刷も粗い。その飾り気の無い紙面か

ら受ける印象は，かわら版そのものである。

51号（昭和50年11月11日）から英文の副題「STAFF BULLETIN」が採用された。企画調査室関係者がカナダの大学から持ち帰った印刷物を参考としている。

429号（昭和59年４月10日）で紙面を一新，「STAFF BULLETIN」の「SB」ロゴが作成され，入学式風景写真が掲載される。この身近な出来事の写真掲載開始は，多くの印刷物が陥った官報化からの回避を手助けしたのではないだろうか。

「速報つくば」活性化のアンケートは平成４年の６月に行われた。アンケートの結果を受け，９月以降は現在と同じ隔週発行となる。808号（平成４年９月30日）には，掲載要望のあった記事についての原稿提供依頼，取り扱い会議の範囲指定，文体の統一，締め切り日時の変更等を掲げている。紙面にも変化があった。それまでは「企画調査室発行」とだけあったものが，編集と発行を明確化すべく「広報公開室編集・企画調査室発行」とされ，翌809号から記載される。さらに，読者が求めているのは会議の検討状況であると分析。会議記事は簡単な議事録風にと担当部局に依頼文を出した。しかしながら，今は原点の「網羅的に議題を掲載する」姿に戻りつつある。

当然のことながら，「速報つくば」も行政文書のＡ判化に呼応した。832号（平成５年10月14日）からである。記事は開学20周年記念式典を掲載し，「SB」のロゴも現在のものに刷新された。

「速報つくば」への検討はその後も続けられ，平成８年４月30日に，「「速報つくば」の発行について（申し合わせ）」が定められた。現在の速報つくば発行はこれに基づく。

昨今は，電子情報技術の進歩，普及が著しい。「速報つくば」も980号（平成12年２月９日）からウェブ版を掲載している。そして，目前にブロードバンド時代。大量データの送受信が可能となった場合における広報刊行物のありかたはどうあるべきか。情報の受け取りの電子化がほぼ完了した現在，発信について考える時となっている。メールマガジン的配信についても検討されつつある。

先達たちは，「速報つくば」を時代にマッチさせ発展させてきた。今，また新しい時代の流れが起きようとしているが，先達に倣い「速報つくば」の発展に少しでも寄与できればと思っている。

（やまざき・としたか　企画部大学広報課）

「速報つくば」編集：筑波大学広報・公開室
発行：筑波大学企画調査室
中央図書館本学関係資料室に所蔵

編集後記

大学発足４か月ともなると、慣れ足しながら、周りを見る余裕が出てきた。そうなってくると、情報不足が気になってくる。各自が能力一杯の努力をしていても知らされなければ、何をやっているのかと思うのが人情・・・

毎週金曜日に企画調査室で原稿を整理し、次週の火曜日に発行の予定である。

官僚的なものでなく、"かわら版"的に編集するので気軽に読んでいただきたい。

将来計画としては、教職員向のクリーム版教職員・学生向のブルー版を発行したい。

この第１号は、企画調査室の単独によったが、今後は各所からの情報提供に期待したい。

「速報つくば」第１号のイラストと編集後記